



牛深ハンヤ大橋を背に進む船団

ともに漕いで、繋がる三県の絆

島原・天草・長島間の三県架橋構想実現に向け、機運を盛り上げる活動の一環として、熊本県天草市の牛深港と本町の蔵之元港間の長島海峡8^{キロ}を横断する第33回カヌー長島海峡横断大会が8月18日に開催されました。

大会には、長崎県南島原市の小中学生13人、熊本県天草市の中学生2人、与論町の中学生3人に本町の小中学生31人を加えた合計49人が参加しました。

牛深港で開会式があり、大会実行委員長の石橋建治さん（指江）が「この大会が皆さんの夏休みの思い出になるようにして



元気良く選手宣誓をする原田健一君

もらいたい」とあいさつしました。選手を代表して、蔵之元小学校6年生の原田健一君が「日頃の練習の成果を発揮し、みんなで協力し合い、漕ぎ切ることを誓います」と元気良く宣誓しました。

選手たちは、応援に駆け付けた家族らから声援を受けながら、午前11時30分に牛深港を出発。好天に恵まれ、海峡の波も穏やかな中、選手たちは軽快にパドルを操り、ゴールの蔵之元港を目指しました。

およそ2時間かけて、選手らは横断し、無事にゴールしました。



第2天長丸に^{かみ}権立てで敬礼する選手

着艇後、陸に上がった選手らは保護者や地域のかたからうどんやスイカのサービスで迎えられ、火照った体を冷やしながら、お互いの健闘をたたえ合いました。

伊唐小学校6年生の山口恵人君は「3回目の参加でした。カヌー横断は疲れたけど、楽しかったです。これからもカヌーを続けたいです」と笑顔を見せました。

選手たちは、来年の横断大会での再会を約束し、別れのあいさつをしました。



横断後、達成感に満ちた全選手

南島原市の選手たちと別れのあいさつ